特別国民体育大会冬季大会
スケート競技会・アイスホッケー競技会

我　ら　か　く　戦　う

期　　日　　令和5年1月28日（土）～2月5日（日）
会　　場　　青森県八戸市・南部町

公益財団法人　北海道スポーツ協会

競　技　名	種　別	評価	予想順位・得点	戦　い　の　展　望	有　望　選　手　・　チ　ー　ム	特　記　事　項
スピードスケート	成年男子	5	団体1位・得点8点 個人総合得点35点	今年度、社会人が北海道の企業から支援を受けて活動できているので、海外組を含めて実力のある選手が多いので成果を上げられる。	山本　悠乃（日本大学2年） 笠原　光太朗（専修大学1年）	各選手は日本スケート連盟公式競技会タイムランキング上位者である。
	成年女子	5	個人総合1位・得点44点	ジュニアワールドカップ代表の軍司　愛梨（日本体育大学1年）・森野　こころ（日本体育大学1年）、ユニバーシアード代表の小野寺　留衣（高崎健康福祉大学4年）と若手の有望選手がそろい、それぞれの種目で上位入賞が期待できる。取りこぼしを最小限に抑え、一人でも多く決勝に進めるよう最善を尽くしたい。	小野寺　留衣（高崎健康福祉大学4年） 軍司　愛梨（日本体育大学1年） 森野　こころ（日本体育大学1年） ウイリアムソン・レミ（コカジスケートチーム）	今年度各種目のタイムランキング上位者を起用した。 2000mリレー三連覇。
	少年男子	5	団体1位・得点8点 個人総合得点75点	普段行わないシングルトラックレースとなるため厳しい戦いが予想されるが、ジュニア選手のトップクラスが集まっているため、学校の枠を越えて北海道のために力を合わせて頑張りたい。	軍司　一冴（白樺学園高等学校3年） ジュニアW杯第1戦500m、1000m優勝	
	少年女子	4	団体2位・得点7点 個人総合1位・得点47点	短距離から長距離まで2名ずつ揃っている優勝候補選手が揃っている長野県に苦戦が予想される。着実に4位以内に2名ずつ入賞することで勝機が生まれる。	河原　莉緒（北海道帯広三条高等学校2年） 1000m、1500mタイムランキング1位、2位 久保　杏奈（白樺学園高等学校3年） 2022インターハイ女子1000m優勝	久保　杏奈（白樺学園高等学校3年） 2022インターハイ女子1000m優勝 奥秋　智佳（白樺学園高等学校2年） 2022インターハイ女子1500m4位 前田　梓（白樺学園高等学校3年） 2022インターハイ女子3000m4位 1・2年生の初出場者が多く、経験不足により予選から苦戦が予想される。
ショートトラック	成年男子	2		北海道は全国的にみてもショートトラックの選手が少ないので状況は厳しいが、他選手のアクシデントなどにより次のラウンドに進出可能性もあるので諦めずに挑戦してもらいたい。		
	成年女子	3	団体5位・得点4点	北海道は全国的にみてもショートトラックの選手が少ないので状況は厳しいが、成年女子は釧路国体以降では3000mリレーで得点しているので今年も継続して得点を取りたい。失格があると無得点になってしまうので確実に完走したい。	米田　くらら（札幌スケート連盟） 東日本ショートトラック選手権の上位者に出場権利が与えられる全日本選抜ショートトラック出場	
フィギュアスケート	成年男子	3	団体8位	団体8位入賞を目指す。		長谷川　一輝（東京理科大学3年）国体6回目の出場 2022シーズン全日本選手権出場22位、インカレ8位、2021シーズン国体7位 坪井　聖弥（北洋大学4年）国体3回目の出場 2022シーズン東日本選手権出場14位、インカレ26位、2021シーズン国体16位 長谷川、坪井ともに3年連続国体出場。
	成年女子	1		目標はフリー進出とする。2人とも予選会で自ら勝ち取った本選出場枠なので、ショートでミスなく演技し、しっかりと成績を残してほしい。		大関　凜花（同志社大学2年） 近畿選手権大会11位（97.40） 清水　柚梨恵（北海道教育大学2年） 東日本選手権大会23位（101.81）
	少年女子	3	団体8位	2人揃ってフリー進出を目指す。		長岡　柚奈（藤女子高等学校） 全日本ジュニア出場、インターハイ出場
アイスホッケー	成年男子	5	団体1位・得点40点	今年のチーム構成は、昨年度までアジアリーグで長年プレーしていた上野　拓紀（釧路トヨタ自動車㈱）選手を擁し、ベテランと若手の組み合わせを作り、平均年齢が若干上がったが、バランスの取れたチーム構成となった。北海道の戦略としては、前年度同様、守りを重点にゲームプランを考え、運動量の豊富なFW陣で守りから攻撃への速い展開をして、得点を取り、勝ちに繋げていきます。選手全員、経験豊富であり、このチームで何を行うべきか理解している事が大きな強みになっている。全体的にＦＷ／ＤＦ全ての選手が攻守の運動量重視をした事で、スピード感のあるチームになった。	佐藤　光（タダノ・芽室町役場） 上野　拓紀（釧路厚生社・釧路トヨタ自動車㈱） 阿部　魁（日本製鉄室蘭・新和産業㈱） 今野　友尋（DYNAX・㈱ダイナックス） 坂本　颯（DYNAX・㈱ダイナックス） 今村　健太朗（DYNAX・㈱ダイナックス） アジアリーグで活躍した選手及び現在J-northでも活躍中で、個人スキルが攻守ともに優れた選手。	北海道成年は現在6連覇中。
	少年男子	5	団体1位・得点40点	心・技・体を備え全力で戦い、最高のパフォーマンスで優勝を目指す。	石田　聖弥（駒澤大学附属苫小牧高等学校3年）、竹田　颯汰（北海道清水高等学校3年）、高橋　一路（駒澤大学附属苫小牧高等学校3年）、高崎　泰成（駒澤大学附属苫小牧高等学校3年）、高田　麟（白樺学園高等学校3年）、大塚　一佐（武修館高等学校3年）はU20世界選手権に出場、Bプール優勝し、ディビジョンA昇格のメンバーで、高校生では日本を代表する選手。	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会の上位校及び特別国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会北海道予選会の上位校から選抜された選手。 インターハイは国体の直前に実施予定。 北海道少年は19連覇中なので、是非連覇記録を伸ばしたい。